罪対策閣僚会議では、「宣言:犯罪に

出雲地区

# 美司会 たより

第23号

第六五回り社会を明るくする運動

御

協

力を

松江保護観察所長

或

府

実力

的な運動です。 安心な地域社会を築こうとする全国 を合わせ、 を深め、それぞれの立場において力 を犯した人たちの更生について理解 ての国民が、犯罪や非行の防止と罪 の強調月間です。この運動は、すべ 七月は 『社会を明るくする運動 犯罪や非行のない安全

活動が始まりとなっています。 罪予防や少年保護を訴える自発的な 心を痛めた東京・銀座の商店街有志 に寄付しました。地域住民による犯 この運動の原点は、戦後間もない 昨年十二月十六日に開催された犯 週間にわたってフェアーを開催し その売り上げを更生保護のため 更生保護制度の趣旨に共鳴し 街にあふれた少年たちの非行に

る者の数を三割以上

(約

ために、 そして、 この取組を推進していく 社会

①二〇二〇年までに出所者等の事 ○○社増)とすること る企業の数を三倍 情を理解したうえで雇用してい (新たに一〇

②二〇二〇年までに帰るべき場所

がないまま刑務所から社会に戻

した。 会は、 という数値目標も設定されました。 会を明るくする運動。中央推進委員 こうした経過とともに、今年の、社 ○人以上) 減少させる 会議には、 初めて総理官邸で開催されま 安倍晋三内閣総理

策が犯罪を減らし、安全・安心に墓 組んでいくことが示されています。 での居場所づくり」に積極的に取り につながる「仕事の確保」と 結果です。この宣言では、再犯防止 要であることが、改めて確認された らせる社会を構築するうえで大変重 定されました。これは、再犯防止施 みんなで支える明るい社会へーが決 戻らない・戻さない」
-立ち直りを

> されました。 席しています。本運動が、政府全体 安定させることが何より大切です。 力を求める総理大臣メッセージも出 のない明るい社会づくりに理解と協 の活動に位置づけられ、 人が大勢います。前歴を承知のうえ 大臣をはじめとし全省庁の閣僚が出 住居」や「仕事」を必要としている 犯罪に戻らないためには、 犯罪や非行 生活を

たり、 罪や非行をした人の立ち直りを支援 をいただき、安全・安心な街づくり て、再び受け入れることへの御理解 していくとともに、社会から排除 御支援をお待ちしています。 で雇用してくださる事業主の皆様の 出雲市にお住まいの皆様には、 孤立させたりするのではなく 犯





# 第65回 社会を明るくする運動

~犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ~

主唱:法務省

# 「社会を明るくする運動」は地域みんなの運動

趣 旨 すべての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解 を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない地域社会を 築くため、"社会を明るくする運動" ~犯罪や非行を防止し、立ち直りを支え る地域のチカラ~として、次の活動を推進する。

強調月間

7月を"社会を明るくする運動"~犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地 域のチカラ〜強調月間とする。

行動目標

①犯罪や非行のない安全・安心な地域社会を築くための取組を進めよう ②犯罪や非行をした人たちの立ち直りを支えよう

重点事項

平成26年12月16日犯罪対策閣僚会議決定「宣言:犯罪に戻らない・戻さな い」を踏まえ、犯罪や非行をした人を社会から排除・孤立させるのではなく、 再び受け入れることが自然にできる社会にするため

出所者の事情を理解した上で雇用する企業の数を増やすこと。

帰るべき場所がないまま、刑務所から社会に戻る人の数を減らすこと。

を重点事項とする。



平成26年出雲市メッセージ伝達式

2

(1)

そ出の雲

他地

の区

取保維護

可

うとする」 れの立場において力を合わ を伝達いたします。 や非 全につい を首長に伝達するものです。 行 これは「すべての国民 の防止と罪を犯した人たちの 行 が国民に向けたメッ 0 趣旨に基づい て理解を深め、 ない 地 域社会を築こ が 犯 せ、 罪

程により内閣 会を明るくする運動」 出 雲地区保護司会では、 総理 大臣 から 0 次 セ 日

受託者 参加 達

出雲市長 出雲地区保護 保護女性会会員 般市民、 保護 司会会長 В В 牛

会会員、 年育成協議会会員 委員・児童委員、 人権擁護委員 少年補導員 出 ほ

11/11 標語の募集 での街頭キャンペーン活動 中学生との対話集会や講 作文の募集 対象:小学生、 広報車やショッピングセ 対象:小学生、 協働活動の推進 集 会の 開 催 催等地中学生 生、 域 演会の ٢

3

(4)

0

連

ところ・出雲市役所 者 き 午前九時一 七 くにびき大ホ 月 H 協力事業主会会 十五 水 分より F ル 生



# 第65回"社会を明るくする運動"

~ 犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ ~ の推進に当たってのお願い

"社会を明るくする運動"は、全ての国民が、犯罪や非行の防止と、あ やまちを犯した人の立ち直りについて理解を深め、それぞれの立場におい て力を合わせ、犯罪や非行のない安全で安心な地域社会を築こうとする全 国的な運動です。

安全で安心な国づくりは、我が国の経済成長や女性・若者が輝く社会の基盤であり、地方創生の礎となるものです。そして、我が国に、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を控え、「世界一安全な国、日本」をつくり上げなければなりません。それを実現するためには、犯罪の約6割を占める再犯を防止するための対策が喫緊の課題であり、あやまちから立ち直ろうとする人たちが地域の中で適切な「仕事」と「居場所」を確保し、社会復帰することができるよう支援することが重要です。

政府においては、昨年12月、再犯防止に関する宣言「犯罪に戻らない・ 戻さない」を決定し、この問題に正面から取り組んでいくこととしました。 国民の皆様には、再犯防止及び"社会を明るくする運動"の社会的意義を 御理解いただき、犯罪のない幸福な社会づくりに取り組む決意のしるしで ある「幸福(しあわせ)の黄色い羽根」のもと、様々な分野から多くの 方々の参加をいただけますよう御協力をお願いします。

平成27年2月10日

内閣総理大臣

安倍晋三

矢口

# 標

ない明るい街づくり」「青少年の非行防止」がアピール できる標語を募集します。 「社会を明るくする運動」 強調月間にあわせて、「犯罪の

# 般の部

応募資格 出雲市内に居住する方

を記入してください。 作品には住所・氏名・ 表のもので、用紙は自由です。 募集方法 一人三点以内とし、 自作、 電話番号

ただくか、 設置してある投稿箱に入れてい ンター・社会福祉協議会などに 市役所・各支所・コミュニティセ トセンター 出雲更生保護サポー (出雲地区保護司会

からも応募できます。 【出雲地区保護司会】 で検索

# 募集期間

七月一日 ~七月三十一日

表

※最優秀賞 点 (賞状・副賞 提出先

出雲地区保護司会ホームページ

まで郵送してください。

# 表 彰

夏休み期間中 募集期間 てください

**※**優 ※優秀賞 ※最優秀賞 良賞 十点 点 二点 (賞状 (賞状 (賞状・副賞) (・副賞) · 副賞)

通じてお知らせします。 詳細については、 各小・中学校を

**※**佳 ※ 優 秀 賞 作 十点 (賞状・副賞) (賞状・副賞

# 子生・中学生の部

# 応募資格

未発

出雲市内の小学生・中学生

# 募集方法

のもので、用紙は自由です。作品 には住所・学校名・学年を記入し 一人三点以内とし、自作、未発表

動支援課青少年育成室へ提出し 各学校を通じて、 てください。 近出先 出雲市市民活

# テーマ

ます。 踏まえて、日常の家庭生活や学校生 たことなどを題材としたものとし や非行に関して考えたことや感じ 活の中で体験したことを基に、犯罪 「社会を明るくする運動」の趣旨を

# 原稿枚数

四百字詰め原稿用紙三~五枚程度

じて提出してください。 出雲更生保護サポートセンター (出雲地区保護司会) へ学校を通

文 作

催

進委員会 社会を明るくする運動」 島根県推

S連盟·山陰中央新報社 根県更生保護女性連盟·島根県BB 護法人島根県更生保護観察協会·島 会・島根県保護司会連合会・更生保 島根県小学校長会·島根県中学校長

# 応募資格

島根県内の小学生及び中学生

応募先

の中で体験したことを基に、犯罪や非行などに関して考え小・中学生の皆さんに、日常の家庭生活・学校生活や地域 たこと、感じたことを作文に書くことを通じて、運動に対 する理解を深めてもらうことを目的として実施されます。

# その他

●募集締切日

九月十日(木

応募作品は、 題名、学校名、学年、氏名 に限ります。応募に当たっては、 がな)を明記してください。 自作、未発表のもの

されます。また、入賞作品の中から 推薦し、審査のうえ入賞作品が決定 務省)に推薦されます。 内を選考し、同中央推進委員会 小学生の部・中学生の部の各三点以 島根県推進委員会に優秀作品を

# 彰

されます。 なお、応募者全員に記念品が贈呈 優秀賞 最優秀賞 各八点 各一点 (賞状・副賞) (賞状・副賞

◎問合せ先 ◎標語・作文の優秀作品は十二月に 発行する保護司会だよりに掲載 します。

出雲更生保護サポートセンター 出雲市小山町五五二番地 (出雲地区保護司会)

第65回社会を明るくする運動 啓発講演会

# 講演「ぬくもりのある地域と家庭」 講談「更生保護の父 金原明善物語」

講師 講談師 五代目 一龍斎貞花 師匠

7月1日(水) 午前9時45分〜 出雲市役所1F くにびきホール 入場無料

※入場者数には限りがあります。



# ◆◆講師プロフィール◆◆

# 【経歴】

昭和14年 愛知県江南市に生まれる

昭和43年 29歳の時サラリーマンから転身

昭和51年 五代目一龍斎貞花を襲名し真打ち

平成2年 愛知県知事ボランティア賞受賞

平成16年 瀬戸山賞受賞

平成18年 東京保護観察協会功労賞受賞

※毎年チャリティ寄席『花の会』を主催し、更生保護活動に寄付 を続けている。

※昭和57年から"社会を明るくする運動"に参加協力し、各地で一 日保護観察所長を務めるなど更生保護事業に多大な貢献をし ている。

# 【現職】

保護司(東京・千代田保護区配属)

講談協会常任理事

日本演芸家連合理事長

法人会本部講師 仏教三宗派 派遣講師

東京保護観察協会理事

東京保護観察所 保護司新人研修講師

# 【著書】

『戦国武将に学ぶ生き残りの戦略』 (日新報道)

『プロ野球武将列伝』(講談社)

『歴史に学ぶ長命はこうして、短命 はこの結果』(日新報道)

『戦国武将生死を賭けた烈語』(中経 文庫) ほか多数

# 【講談CD】

『更生保護の父 金原明善物語』

※販売収益を更生保護活動に寄付 『米百表』『燃える男 星野仙一物語』 ほか多数

# 【講談DVD】

赤穂義士伝<mark>「義士</mark>本伝・銘々伝」 赤穂義士伝「義士外伝」

主催:出雲地区保護司会

協賛:出雲市社会を明るくする運動推進委員会

お問い合わせ:出雲更生保護サポートセンター(出雲地区保護司会)

〒693-0051 島根県出雲市小山町552番地 TEL(0853) 22-7190 FAX(0853) 22-7191

専門部会

(◎:部会長、

〇:副部会長

○長子明久

広報部会

…◎安田公臣

〇田部敏雄

○横木俊信

協力組織部会⋯◎勝部治良

犯罪予防部会…◎高尾

彬

研修部会

::◎岸

篤 洋 子 ※1

○園山久美子

事務局長

尚

監

河瀬康承、

Ш

藤森麗子

# 新しく選出される (※は兼任者) 平成二十七二十八年度執行部が 出雲地区保護司会

副 常任理事 会 長 長 鈴木 安住文雄 柳楽泰洋 野津徳男 川本龍祥 城本光弘 从本圭祥 尾 田 泰明 朗 亮 (出雲支部長) (大社支部長 (斐川支部長) (平田支部長) 土井 原 橘 (河南支部長 亮秀、 顕 市場隆子 勝部治良

# サポートセンターだより 子育でサロン「あっちらと」。 お陰さまでの年間を迎えました。

平成22年4月、保護司や更生保護女性会会員・保健師OBなど有志15名が集まってグループおっちらとを結成。 現在の更生保護サポートセンターを会場に、小規模子育てサロン「おっちらと」を開始してから、今年で6年目 を迎えました。

当初は毎月1回の開催でしたが、3年目からは年5~6回、七夕・クリスマス・ひな祭りなど季節の行事を中心に開催してきました。サロンには、これまで、地元の四絡地区をはじめ出雲地域から延べ400人の親子が参加。スタッフの皆さんは「子どもたちの明るい声に元気をいただいています。決して大きな活動ではありませんが、"継続は力なり"をモットーにサロンの利用者がある限り続けていく考えです。皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いします」と話していました。

子育てサロン「おっちらと」の利用やおたずねについては、出雲更生保護サポートセンター(☎22-7190)まで。



# 察研修

# 出雲地区保護司会大社支部

衷会を視察研修しました。 大阪市北区山﨑町の更生保護法人和 和衷会の保護事業は、大正元年明 平成二十七年三月十二・十三日に

赦により多数の受刑者が釈放され て善導し、 これを契機にその人達を収容保護し 治天皇がお亡くなりになり、 社会復帰を図る目的で その恩

> をもつ施設として、現在に至ってい 護会は更生保護施設に改称され、成 更生保護法人として認可を受け、保 開始されています。昭和六十二年財 団法人和衷会に改められ、平成八年 在阪仏教各派寺院の連合協力のもと 人男子一一○人の日本一の保護定員

り、 ①定員一一〇人中六三人が入 学、続いて施設全般の説明を受 り、早速、和衷会の施設内を見 じ」の紹介等を含めた挨拶があ けました。 松江の保護施設「しらふ

②職員は収容人数で決定 ③和衷会の一日 の内容 居、うち二八人が日雇い建設 業の職についている。 (日課)・保護

更生保護施設和衷会の玄関にて

出勤者は弁当持参 生活指導 食事の無料提供 ・就職の援助

レクリエーション

開門五時四〇分・閉門

二時

⑥薬物乱用防止専門職員によ る指導 託

はじめに川本大社支部長よ

だきました。 る人たち、保護の手続につい 受けている人たち、 保護施設の組織、 等の話を聞くとともに、更生 ても大変ていねいな説明をしていた 保護観察を 対象とな

健康管理 • 自治会活動 奉仕活動

④地域の協力・地域への参加

• 協力雇用主、保護司、 にわたる援助 生保護女性会の物心両面 更

施設は地元町内会の 一員

施設の地域利用

⑤施設運営費は法務省より委 町内の道路、公園の清掃

四天王寺



和衷会の施設内

たことに感謝し帰途につきました。 研修で多くのことを学び、 加者でお参りしました。 なかに、 衷会が保護事業を開始されたお話の めて研修することができました。和 るい社会づくりをしていることを改 社会復帰の助けをし、犯罪のない明 保護をすることにより再犯を防ぎ がない人達に宿泊場所・食事・必要な 刑務所から出所しても適当な住居 四天王寺の話題もあり、 今回の視察 参加でき

刑務所から釈放になった者が、再び

罪を犯すことのないように温かく

も特に大切なことです。

少年院や

す。一方、犯罪に陥った者が再犯を 予防活動を展開することが必要で いように環境を浄化するなど、犯罪 地域社会から犯罪に陥る者が出な

しないよう保護や指導をすること

迎え入れ、

職業や住居確保などに

されています。

ついて助言や援助を行うなどして

根県就労支援事業者機構などの人 島根県協力事業主、NPO法人島 保護女性会員、島根県BBS会員 ある島根更生保護会、島根県更生 びに更生保護関係の機関・団体で 根県内およそ五〇〇人の保護司並 熱意と人間愛の精神に基づき、鳥

支援を賜りますよう、よろしく 協会にご加入のうえご協力を賜 八百名の皆さまに島根保護観察 お願い申しあげます。 今年度も、引き続き温かいご 厚く御礼申しあげます。

出雲地区保護司会

会長 坂 本 圭 祥

たの善意が 罪前歴者や非行青少年の更生保護 に努力を続けています。 たちが日夜これにたずさわり、 犯罪のない安全・安心な明るい

を社会に求め、物心両面に亘るご 仕事です。 ぜられていますが、 更生保護事業には種々の施策が講 さんのご協力なくしては出来ない 社会を構築することを目的とする 一人でも多くの理解ある協力者 地域住民の皆

会問題になっています。

このような犯罪を予防するには

犯罪が相次いで発生し、

大きな社

近年、

社会を震撼させるような

業の支え。

状況に対処するため、 る犯罪予防並びに保護司活動等の することは困難です。 支援がなければ、その目的を達成 充実発展を図る目的をもって組織 島根保護観察協会は、こうした 県内におけ

うお願い申しあげます。 会の会員としてご協力賜りますよ 左記の会費を納入いただき、当協 何卒、趣旨をご理解いただき

活につかせ、善良な社会の一員とし 更生への自覚を促進し、安定した生

て復帰させることが、社会全体とし

て極めて重要な問題です。

これらの仕事には、社会奉仕の

特別会員 賛助会員 協力会員 普通会員 名誉会員 年額 年額 年額 年額 年額 十万円以上 五千円以上 三千円以上 万円以上 千円以上

更生保護法人島根保護観察協会 理事長 古 瀬 誠

# お礼とお願い

L

韓部会

犯

出雲地区では、 昨年度、 約千

# 保 護

◎退

任

日下 高瀬

晴雄

(檜山

泰子(神門

根

文夫(荒木





# 動

# ◎新 任

(平成二十七年五月三十一日付

糸賀 太道(神門)

加地 弘道 崇志 (檜山 (日御碕

> しました。 ら八点を、

今年度も標語・作文の応募をよ

て募集した標語の優秀作品の中か 会を明るくする運動」の一環とし

各ページの下部に掲

今回の二十三号は、昨年度の

(平成) 一十七年六月

閣総理大臣の強い決意の表れと思 心で安全な国づくりを、という内 す。このことは、今まで以上に、 臣からのメッセージになっていま セージでした。今年は内閣総理大 す。昨年までは、法務大臣のメッ セージ伝達が七月一日に行われ 江保護観察所長に執筆願いました。 「社会を明るくする運動」のメッ 巻頭には、今年度新任の國府実松

※この広報紙は、更生保護法人島根保護観察協会からの助成金を財源として発行しています。

# ◎安田 富岡 野津 松村 勝島 安住 徹正 文雄 光紀 俊夫 雅史 正利 公臣 ◎部会長 藤田 天野 小倉 川上 囲 花田久美子 ノ瀬隆男 部 ○副部会長 郁子 良枝 清子 敏雄

努

集 後

われます。

日付 ろしくお願いします。

田部敏雄

出雲地区保護司会

事務所:出雲市小山町五五二番地

電話22-7190